

特別支援学校（聴覚障がい）における 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導の在り方について

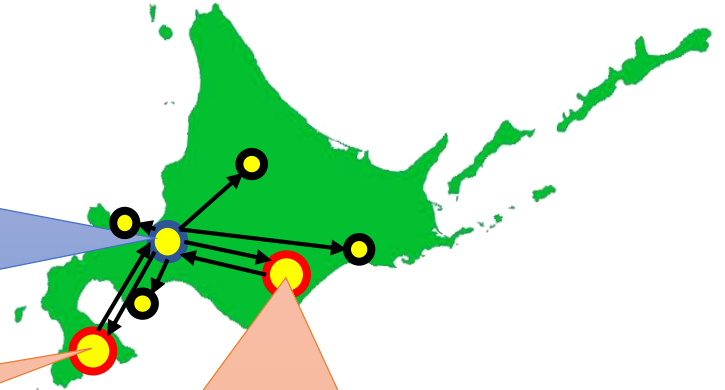
- 本道の特別支援学校（聴覚障がい）の現状
 - ・ 在籍する児童生徒数の減少
 - ・ 多様なコミュニケーションのニーズ

課題

少人数の集団において、子ども同士の学び合いやかかわり合いを促し、「主体的・対話的で深い学び」を実現できる授業改善の取組を広める必要がある。

【特セン】

- ・ 道内の各聾学校における優れた実践事例を収集、蓄積する。
- ・ 道内全ての聾学校において、授業改善の取組が推進されるよう、情報発信する。



【函館聾学校】

中学部全学年「特別の教科 道徳」の取組

- 目標提示の工夫
 - ・ 道徳的価値を自分ごととして深く考えることができるよう、生徒の経験や考えに基づいた本時の目標を設定する。
- 発問提示の工夫
 - ・ 発問の意図を理解したり、見通しをもって学んだりできるように、主発問を事前に掲示する。

→ 「主体的な学び」

- 言語活動の充実
 - ・ 多面的・多角的に考え、人間としての生き方を深めることができるよう、対話や役割演技などを取り入れる。

→ 「対話的な学び」

【帯広聾学校】

小学部第6学年「算数」の取組

- 教師の役割の工夫
 - ・ 教師が児童役として話し合いに参加する中で、児童の思考をゆさぶるヒントを与える。

→ 「対話的な学び」

- 学習過程の質的改善
 - ・ 数直線や比などの既習事項を活用し、算数科における「見方・考え方」を働かせながら課題の追求・解決に向かう。
 - ・ 本児の学習を通して得た学びを、自分の言葉で表現する。

→ 「深い学び」

○ 成果

- ・ 道内聾学校における「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた取組を収集、蓄積した上で、他の聾学校で実践することが可能な取組例として整理することができた。

● 課題

- ・ 整理した取組例の発信及び普及に向けた方策を検討する必要がある。